

ビジネスと知的資産・知財法研究分科会セッション

◆ グローバル環境で勝てる知財の創造とマネジメント ◆

【セッションの内容】・・・日本文化のテイストを織り込み、グローバル環境で勝ち残ろう・・・

■ パネリスト

<パネリスト>

生越由美氏（東京理科大学大学院 MIP 教授）

草間文彦氏（東京理科大学大学院 MIP 教授）

池田享史氏（アートディレクター／design+service 株式会社代表）

中島 淳氏（日本知財学会 理事（副会長）：特許業務法人太陽国際特許事務所所長、工学院大学客員教授、静岡大学客員教授、弁理士、博士（工学）。

<モデレーター>

遠山 勉氏（日本知財学会・ビジネスと知的資産・知財法研究分科会幹事：秀和特許事務所特別顧問、成蹊大学法学部非常勤講師、弁理士）

■ 内容

グローバル時代の知財マネジメントを考えると、まず、日本企業の競争力をどのように確保するか、という問題がある。そこでは、グローバル環境で価値を認められる商品・サービス作りのあり方、提供の方法が問われる。そこで、着目されるのが「日本文化のテイスト」を知財に織り込むという手法である。日本独自のテイストを製品などの知財に織り込むならば、外国人による模倣品が出ても、オリジナルを凌駕することは不可能である。むしろ、オリジナルの価値は模倣品が出るほど上がる。

では、日本文化のテイストとは何だろうか。それは、クール・ジャパンとして取り上げられた「アニメ」、キャラクター、サブカル的なコンテンツだけに止まらず、日本人のもつ、緻密さ、清潔さといった特性から、曖昧で、境界のよくわからない言語文化、歌舞伎や狂言、落語などにも見られるおちゃらけた文化まで、広範囲に渉る。それらは、単にコンテンツとして単独で提供するだけで勝てるのか、技術や製品・サービスさらにはブランドに結びつける必要があるのか、その場合どのように結びつけたとき、勝てるようになるのか、興味深い。

そこには、グローバル世界での評価基準に乗せるための「戦略」が必要となるようである。芸術の世界では、村上隆が、「作品を通して西洋芸術史での文脈を作ること」を提唱し、成功した。どうやら、そこには日本文化の持つテイストを外国人にも理解できるようにするための仕掛けや、仕組み、インタープリターの介在が必要となるようである。

当セッションでは、早くから日本文化資産の活用を提唱している生越教授、LIMA(国際ライセンス産業マーチャダイザーズ協会)日本代表を長く勤め、キャラクタービジネスにも精通した草間教授、アートディレクターとして活躍する池田氏、技術と知財を長年扱ってきたベテラン弁理士の中島先生をお招きし、それぞれの立場から本テーマにつき語っていただき、日本企業がグローバル環境で勝ち残るための知財創造と知財戦略のあり方を探求する。

以 上

ビジネスと知的資産・知財法研究分科会セッション

◆ グローバル環境で勝てる知財の創造とマネジメント ◆

【略歴】

1) 生越由美：昭和 56 年国家公務員上級甲種（薬学）合格、昭和 57 年東京理科大学薬学部卒業、経済産業省特許庁入庁、審査第三部審査官、審判部審判官を経て、平成 9 年審判部書記課長補佐、平成 15 年特許審査第二部上席総括審査官（室長）、同年 10 月政策研究大学院大学助教授、平成 17 年東京理科大学大学院 MIP 教授、現在に至る。公職歴は知的財産戦略本部コンテンツ・日本ブランド専門調査会委員、IT 戦略本部農業分科会委員など。著書に『社会と知的財産』（共著/財団法人放送大学教育振興会）、『デジタル時代の知的資産マネジメント』（共著/白桃書房）など多数。平成 18 年度東京財団研究助成対象、平成 20 年（財）機械産業記念事業財団第 1 回知的財産学術奨励賞（日本知財学会特別賞）受賞。

2) 草間文彦：立教大学経済学部卒業。UNICEF（国連児童基金）ライセンスングアドバイザー、米国 NPO 法人 LIMA（国際ライセンスング産業マーチャダイザーズ協会）日本代表を 2002 年より 2011 年まで、また一般社団法人日本ライセンスング・ビジネス協会代表理事を 2011 年より 2012 年まで勤め、現在同会員。コンサルティングファーム、ブランド代表取締役。米国ハインツ社商標マスターライセンサー、BSA Legal（英）、The Dakar（仏）などの日本でのライセンス代理人、国内外の企業、NPO、自治体などの知財権コンサルタントを務める。日本文藝家協会、日本ヴェルディ協会、日本ワーグナー協会会員。著書に「実践ライセンスビジネス・マネジメント」（2009 日本経済新聞出版社刊）など。

3) 池田享史：武蔵野美術大学卒業。リクルート、大貫デザイン等を経て、'04 年に design service を設立。フジテレビ企業広告、全日本リ्यूージュ連盟オープンラボ、六本木クロッシング 2010、2012 ロンドンオリンピック バレーボール世界最終予選、2020 東京オリンピック招致「100days」、全日本ブラインドサッカー世界選手権など、広告デザインやデザインマネジメントを中心に幅広く活動中。

4) 中島 淳：工学院大学大学院博士後期課程電気電子工学専攻修了。1988 年：弁理士会副会長。2007-2008 年：日本弁理士会会長。2002-2004 年：内閣府総合科学技術会議知的財産戦略専門調査会委員、2011 年-2013 年：知的財産戦略本部本部員、著書に『インテlectual・プロパティ』（共著/社団法人発明協会）、『知財最前線からのメッセージ』（共著/財団法人経済産業調査会）など。

5) 遠山勉（モデレータ）：中央大学法学部法律学科卒。東京理科大学工学部第 2 部電気工学科卒。自動車部品メーカー・特許事務所を経て佐藤・遠山特許事務所（秀英国際特許事務所）を設立、合併で秀和特許事務所共同設立。特定侵害訴訟代理登録、（株）キングジム社外監査役、（株）知財ソリューション代表、著書に『欧州・米国・日本 国際特許共通明細書の書き方』（共著/イカロス出版）1996 年、『ロボットのいる暮らし』ロボ LDK 実行委員会（B&T ブックス）（共著/日刊工業新聞社）など。